

# 2026 CAR PowerPoint Script

## 2 of 6: Motions

### Slide 1

これは、2026年カンファレンス・アジェンダ・レポート（略して CAR）に含まれる資料を扱う、全6本のパワーポイントのうちの第2回目です。

### Slide 2

このPowerPointでは、CARで提案されている5つの動議（ワールドボードによる3件のモーションと、リージョンによる2件の動議）を扱っています。

### Slide 3

これらのPowerPointは、CARの要点のみを扱っていることをご理解ください。

すべてのメンバーに、CARそのものを読むことを推奨します。

2026年CARの全文、そのほかのPowerPoint、ならびに会議関連資料については、[na.org/conference](http://na.org/conference) をご覧ください。

### Slide 4

まず、ワールドボードによる動議を取り上げます。内容は以下のとおりです。

動議1：IP21『孤立の中でクリーンであり続ける』の改訂を承認する

動議2：共同で策定された2026～2029年NAWS戦略計画を採択する

動議3：NAワールド・コンベンションのガイドライン変更を承認する

### Slide 5 [IP #21 改訂の背景]

2019年11月、CARの中で文献サーベイが実施されました。2020年3月、世界的なロックダウンが始まりました。WSC 2020は、初めて完全オンラインで開催されたワールド・サービス・カンファレンスでした。CARサーベイを通じて、メンバーはIP21『ザ・ローナー：孤立の中でクリーンであり続ける』の改訂に関心を示しました。カンファレンスは、この作業を2020～2023年サイクルの優先事項とすることに合意しました。このテーマに関する最初のサーベイが実施され、初めて孤立した状況でクリーンを保っていたメンバーから意見が集められました。しかし、緊急事態という状況の性質上、このプロジェクトはいったん棚上げされることになりました。このプロジェクトは2023年に再び優先事項とされ、再開したときには、フェローシップとしての私たちの経験は大きく変化していました。

### Slide 6

もしこれより早い段階で改訂作業に取りかかっていたなら、印刷される前に内容が時代遅れになっていたでしょう。この遅れがあったからこそ、それ以前には存在しなかったリソースや経験を活かすことができました。2020年から今日にかけて、オンライン・ミーティングはフェローシップの中で一般的なものとなり、私たちのつながりは、ある意味でこれまで以上に強ま

っています。今日では、孤立しているメンバーのために利用できるリソースがあり、それらはこのIPが1980年代初頭に最初に作成された当時には想像もできなかったものです。当時、世界中のアディクトからワールド・サービス・オフィスに寄せられる手紙が急増したことを受け、ワールド・サービス・オフィスは、孤立したメンバー同士を文通相手としてつなぐために「ローナー・グループ」を設立しました。この時期に、2つの出版物が作成されました。ひとつは、刑務所などに収容されている人のための『リーチング・アウト』、もうひとつは、距離、身体的・精神的な健康上の課題、介護や軍務といった理由により対面でミーティングに参加できない人々のための『ミーティング・バイ・メール』です。

### Slide 7 [フェローシップの声によって形づくられた]

状況の変化がフェローシップにおける改革をどのように促すのか、また、孤立の中での経験の蓄積がどのように広がり、このテーマが多くのメンバーにとってますます重要なものになるかを、当時知ることはできませんでした。2022年2月から8月にかけて、サーベイが実施されました。33か国およびアメリカ45州から、500件を超える回答が寄せられ、いくつかの驚くべき結果が示されました。: 回復の中で孤立を感じていると回答した人のうち、地理的な孤立が原因であったのは25%未満であり、テクノロジーが状況を急速に変えつつあることが明らかになりました。(2023年カンファレンス・レポートには、このサーベイ結果の要約が掲載されています。)

このプロジェクトは2023年WSCで再び優先事項とされ、2023～2026年サイクルでは、ワールド・サービスがプロジェクト作業やフォーカスグループに関心のあるメンバー向けにボランティア登録フォームを公開しました。関心を示し、孤立の経験を持つメンバーの中から、2つのフォーカスグループが編成されました。

これらのオンライン・ディスカッションでは、参加者に自身の経験を共有してもらいました。孤立に至った経緯、孤立の経験が困難だった理由、どのように経験が変化をもたらしたか、そしてどのようなツールやリソースが役立ったか、という点です。参加者の意見は、感動的で洞察に満ち、非常に感情的なものでした。サーベイとフォーカスグループの両方で強く伝わってきたメッセージのひとつは、孤立している理由は地理的な要因以外にも多くあり、どのような理由であれ、「ローナー」と呼ばれることをあまり好まない、ということでした。

そのため、タイトルから「ローナー」を外すことになりました。

### Slide 8

動議1：IP21『孤立の中でクリーンであり続ける』改訂版（付録Aに掲載）を、フェローシップ承認済み回復文献として承認し、現行のIP21『ザ・ローナー：孤立の中でクリーンであり続ける』に置き換える。

提案者：ワールドボード

意図：1986年に承認されたこのIPを、現在のフェローシップの経験に基づいて更新すること。

財務への影響：現時点ではなし。

影響を受ける方針：なし。

(ここでディスカッション用の一時停止)

### Slide 9

NAWS戦略計画自体は新しいものではありません。NAワールド・サービスは20年以上にわたり戦略計画に基づいて運営されてきました。新しいのは、皆さんにこの計画を採択するよう求められていることです。

すべてのカンファレンスごとに計画は改訂・更新され、計画の優先事項が次のサイクルの活動内容を形作るのに役立っています。これまで、NAWS戦略計画はカンファレンス承認トラックの資料に含まれていました。今回初めてCARに含まれ、カンファレンス全体で作成されたものとなります。すべてのカンファレンス参加者が、CARの付録Bに掲載されているこの計画の共同作成の各段階に関わっています。

戦略計画を共同かつ協働で作成・採択することは、動議主導のサービス文化から、議論と合意形成を重視する文化への大きな転換の一部です。

### Slide 10 [戦略計画とは何か?]

計画を立てることで、今を生きながら、これから起こることに備えることができます。計画を立てることで、一歩ずつ前進しながら、方向性や進捗を確認することができます。戦略計画は、NAの内部および外部の要因に関連する変化を指針とし、メッセージを届ける能力に影響を与える可能性のある要素に対応します。計画の目的や解決策は、ワールド・サービスで現在行われている活動に加えて実施される、新しい取り組みやアイデアに関するものです。

この計画は、次期サイクルである2026～2029年を対象としており、今すぐに取り組むことができる部分のみを示しており、すべての可能性を網羅しているわけではありません。目標の中には大きなものもあります。計画に示されている解決策は、優先順位に基づいて次回WSCまでに達成可能な段階的な進捗を示しているにすぎません。時には、計画の一部がサイクルをまたいで引き継がれることもあり、場合によってはわずかな修正が加えられます。

### Slide 11 [計画には何が含まれているか?]

2026～2029年の計画を読むことで、NAがどのように進化しているかを垣間見ることができます。計画には、メッセージを伝えること、資金を集めること、オンラインやハイブリッド環境でのサービス活動などに関する内容が多く含まれています。コミュニケーションやつながりを改善するためにテクノロジーを活用すること、NAの外で義務付けられたり処方されたりす

る治療方法に関わらず、すべてのアディクトがNAで安全に回復できる場を確保すること、そして、すべてのアディクトがNAに居場所を見つけられるよう、言語表現をより包括的にする方法を探求し続けることです。

計画には、各サイクルで実行できる以上の内容が常に含まれています。作業はまず優先順位の高い項目から始まり、その進捗はサイクルを通じてカンファレンス参加者に共有されます。

### Slide 12 [柱（ピラー）構造図]

戦略計画を理解するには、用語に慣れることが重要です。以下が、この計画を構成する要素です。

キー・リザルト・エリア（KRA）は、「NAサービスのビジョン」を実現するために、サービスの取り組みが集中される主要な分野です。

これらは、相互に連携しながら築かれる、この計画の4つの柱です。

これらは、サイクルごとに見ても、ほとんど、あるいはまったく変わることはありません。

イシュー（課題）とは、今サイクルにおいて取り組むことが最も重要であると、カンファレンス参加者が共同で判断した要素です。

オブジェクティブ（目的）は、目指すべき目標です。計画サイクルの終了時までには何を達成したいのかを示すものであり、どのように達成するかではありません。

ソリューション（解決策）は、オブジェクティブ（目的）を達成するための道筋です。これは、NA全体を代表してワールド・サービスに取り組んでほしい作業を示しています。解決策には、目的の達成に役立つすべてを含める必要はなく、プロジェクトが優先された場合に、次のサイクルで実行したいステップのみが示されています。

### Slide 13 [計画策定プロセス]

試行的に導入された3年サイクルによる追加の時間があったことで、カンファレンスはこの計画を共に作成することができました。カンファレンスのウェブサイト内にある計画セクション（[na.org/planning](http://na.org/planning)）には、サイクル全体を通じた進捗に関するレポートが掲載されています。

WSC 2023のカンファレンス参加者（CP）は、メッセージを伝える能力に影響を与える可能性のある、NAの内外の要因を特定するためのインベントリー（棚卸し）を開始しました。  
WSC 2023の後、カンファレンス参加者（CP）はサーベイを通じて、それらの要因に優先順位を付けました。

2024年2月から5月にかけて、世界中のすべてのゾーンが話し合いをし、これらの要因によって生じる課題や、考え得る解決策について話し合いました。

2024年6月、ワールドボードは、これらすべてのディスカッション記録をもとにオブジェクティブ（目的）を作成し、あわせてワールド・サービスの構造および運営に関するオブジェクティブも起草しました。

中間WSCにおいて、カンファレンス参加者はイシュー（課題）とオブジェクティブ（目的）について話し合いました。

2025年7月、ワールドボードは中間WSCにおけるカンファレンス参加者（CP）の議論を踏まえてオブジェクティブ（目的）を改訂し、ソリューション（解決策）を起草しました。

8月のウェブミーティングにおいて、カンファレンス参加者はソリューション（解決策）について話し合いました。

2025年9月、ワールドボードはカンファレンス参加者（CP）の議論を踏まえてソリューション（解決策）を改訂し、計画案を最終化しました。

#### Slide 14 [計画の実施]

ソリューション（解決策）をどのように実施するかという具体的な内容は、プロジェクト計画に明示されています。カンファレンス承認トラックの資料には、NAWS戦略計画から発展したプロジェクト計画が含まれています。カンファレンス承認トラック資料に含まれるプロジェクト計画の中には、回復文献、サービス用資料、イシュー（課題）ディスカッション・トピックに関する「空白の」計画も含まれています。2016年以降、CARサーベイの結果が、これらのプロジェクトの焦点を選定する際の指針として、カンファレンス参加者に活用されています。カンファレンスは、協働による計画策定にまだ新しく、このプロセスは今後も継続的に洗練されていきます。計画策定プロセスを評価し、改善することは、WSC 2026で話し合われる多くのテーマの一つです。

サービスで使う文献や回復の文献に関する多くのプロジェクトは、まずフェローシップ全体を対象とした何らかのサーベイから始まり、メンバーがそのプロジェクトにおいて何を盛り込み、何を検討してほしいかを把握します。その後、作業を進めるために、オンラインのフォーカスグループが活用されます。常設のワークグループと比べて、フォーカスグループはコストが低く、柔軟性があり、より多様な参加を可能にします。しかし、次のサイクルで提案されているプロジェクトについては、NAWSはゾーンおよびリージョンのボディにも、ワークショップの開催、ベストプラクティスの収集、ドラフトのレビューなどを通して、プロジェクトに取り組むことを求めています。この計画に盛り込まれた多くの解決策の前進は、ゾーンおよびリージョンからの協力にかかっています。

実際のところ、NAWS戦略計画がローカルレベルのプロジェクトを生み出すきっかけとなることが期待されています。これらの目的の枠内には、ローカルレベルで取り組むことが可能なソリューションも含まれているかもしれません。そしてこの計画が、より多くのローカルのサービス体が独自の計画づくりに取り組むことを後押しする可能性もあります。

#### Slide 15 [ロードマップ]

このサイクルを通して、私たちは計画づくりの道のを「一緒に旅をしてきたロードトリップ」として描いてきました。しかし実際には、計画プロセスは循環的なものです。

計画が循環的であるからこそ、この戦略計画が承認されるのと同時に、次の戦略計画の作成が始まります。

2026年のワールド・サービス・カンファレンス（WSC）では、デリゲートたちはこの新たな作業を始めるよう求められます。それは、今日ここに至るために、2023年に計画プロセスを開始したのと同じような形です。

CARに含まれるモーションが少ないということは、WSC 2026において討議に充てられる時間がより多く確保されることを意味します。そして、その討議の一部は、2029年以降の数年にNAに最も大きな影響を与える可能性のある、NA内部および私たちを取り巻く世界の要因に焦点を当てたものになるでしょう。

WSCで参加者が話し合う問いは、次のようなものになるかもしれません。

「今日ここにいるアディクト、そして将来ここに来るアディクトに奉仕するために、私たちはどのような課題・挑戦・ニーズに取り組む必要があるだろうか？」

もしこの問いがあなたに何かアイデアを呼び起こしたなら、それをあなたのデリゲートや、エリアまたはリージョンのCARワークショップでぜひ共有してください。

[ファシリテーター：時間があれば、ここで討議のために一度立ち止まってもよいでしょう。]

### Slide 16 [この計画を採択すること]

NAWS戦略計画は大規模で、多くの詳細を含んでいますが、個々の部分ごとではなく、計画全体として採択することが求められています。デリゲートたちは、この計画が今後3年間においてワールドサービスが最も取り組む必要のある活動を明確に示すものとなるよう、文字どおり何年にもわたって協力して作り上げてきました。この計画は、私たち全体のニーズと優先事項を、間違いなく反映しています。

計画のすべての部分は、デリゲート、オルタネイトデリゲート、そしてワールドボードを含むカンファレンス参加者全員によって話し合われてきました。この計画を作り上げるまでには、数多くの対話が重ねられてきました。そのプロセス全体は、真にコンセンサスに基づくものでした。

この動議では、「承認する（approve）」ではなく、「採択する（adopt）」という言葉を用いています。多くのメンバーにとっては、この計画を見るのは今回が初めてかもしれませんが、この計画は、何年にもわたって、共同で作られられてきたものです。私たちはこの計画を、全体の福利のために、皆さんのデリゲートが皆さんに代わって共同作成してきたものとして、フェローシップ全体で主体的に受け取り、引き継いでいただきたいと思っています。

### Slide 17

動議2：付録Bに含まれる、共同で作成された2026–2029年 NAワールドサービス戦略計画を採択する。

提案者： ワールドボード

意図：2023年WSCで開始され、その後のサイクルを通じて、ゾーンおよびカンファレンス参加者の関与のもと進められてきた、協働的な計画策定の成果を承認するため。

財務的影響：現時点で直接的な財務的影響はありません。

今後発生する可能性のある費用については、プロジェクト計画または予算の中で明示されません。

影響を受ける方針：なし

(ディスカッションのため一時停止)

### Slide 18 [WCNAの歴史]

ワールドコンベンションは、50年以上にわたり、フェローシップにとって、一体性と回復を祝う場であり続けてきました。1971年から1996年までは、ワールドコンベンションは毎年開催されていました。1990年代半ば、当時のワールドコンベンション・コーポレーションは、新たな「ゾーン制」によるローテーション計画を導入し、開催頻度を2年に1回とするための動議を提出し、それらはWSCで採択されました。このローテーション計画の目的は、コンベンションを2回に1回、北米以外で開催することにより、世界規模での参加を促進することでした。

その後、このローテーション計画は一部修正され、ゾーン数は9から6へと変更されました。また、1998年から2009年にかけて、北米での開催地が2か所追加されました。

参加者数、効果的な企画運営、そして財務面に関する継続的な課題を受けて、ワールドボードは新たなローテーション計画を提案し、この計画は2012年WSCで採択されました。改訂されたこの計画では、アメリカ国内と国外で交互に開催することとし、2015年からは3年に1回、ワールドコンベンションが開催されることとなりました。

### Slide 19 [WCNAの歴史]

北米で開催されたコンベンションは、WCNA32（サンアントニオ）を除き、全体として好調な傾向を示していました。WCNA34および35はいずれも参加者数が良好で、適度な収益を上げました。2018年に開催されたWCNA37（オーランド）は、特に際立った成功を収めました。このコンベンションには2万1,000人を超える参加があり、100万ドルを超える大きな収益を生み出しました。これは主に、会場契約の条件が有利であったことと、参加者数の多さによるものでした。

2020年の世界的なパンデミック以前には、WCNA38はオーストラリア・メルボルンで開催される予定でした。しかし、世界的な移動制限や新型コロナウイルス感染症に伴う健康上の懸念に加え、NAワールドサービスの財務的および人的資源への負担が重なったことから、コンベンションを中止することが最も責任ある判断とされました。

不安定な状況を受けて、2023年WSCでは、ワールドボードから提出された動議が採択され、2024年以降、WCNAのローテーション方針を一時停止することが承認されました。これは、ワールドコンベンションの今後について、何が可能で实际的であるのかを調査・検討するための時間を確保することを目的としたものです。

WCNAの歴史について、さらに詳しい情報は [na.org/wcna](http://na.org/wcna) をご覧ください。

### Slide 20 [WCNA 38 数字で見るコンベンション]

WCNA38は、2024年にワシントンD.C.で開催されました。WCNA38から私たちが学んだ最も大きなことのひとつは、コンベンションを取り巻く状況が大きく変化しており、参加者数の見通しがいかに不確実になっているかという点でした。北米で開催された直近2回のコンベンションの傾向、6年間WCNAが開催されていなかったこと、そしてワシントンD.C.が多くのNA人口密集地域から車でアクセスしやすい場所にあることを踏まえると、オーランド開催を上回る参加者数になる可能性があると考えるのは妥当であり、それに基づいて計画を立てることには論理的な理由がありました。一般的には過去の実績が将来の結果を示す指標となることが多いのですが、今回に関しては、私たちが今知っているとおり、その前提は当てはまりませんでした。

現在の経済状況による財務的な負担に加え、特に高齢化が進むメンバーの間で続いている健康や安全に関する懸念など、さまざまな要因が、ワシントンD.C.での全体的な参加者数に影響した可能性があります。WCNA38は参加者数2万4,000人を想定して計画されていましたが、実際の登録者数は1万8,000人強にとどまりました。

### Slide 21 [WCNA 会計報告]

2024年活動報告のとおり、WCNA38の最終的な収支は、収入を95万6,129ドル（約1億5,000万円）上回る支出となりました。幸いにも、準備金を増やすために行われてきたワールドサービスの取り組みにより、このような不利な結果に対しても対応できる体制が整っていました。

### Slide 22 [WCNA 38 事前登録者数 国別チャート]

2023年に採択された、WCNAの現行ローテーション方針を一時停止する動議により、ワールドサービスは、今後に向けて何が实际的であるのかを調査・検討するための時間を得ることができました。その後の約18か月の大半は、議論に必要な情報を収集し、どのような方針変更が最も理にかなっているのかについて、コンセンサスを形成するために費やされました。NAメンバーがWCNAに参加する理由、あるいは参加しない理由に共通した傾向があるかを確認するため、サーベイが実施されました。予想どおり、回答者3,616人の大多数は、渡航費を含む経済的要因や開催地を、参加を判断する上で最も大きな影響要因として挙げました。また、寄せられた回答のおよそ半数は、これまで一度もWCNAに参加したことがないメンバー

からのものでした。このサーベイ結果の詳細については、WSC 2026に先立って発行されるカンファレンスレポートで、さらに報告される予定です。

### Slide 23 [今後に向けて]

ワールドボードが動議3を提出する決定に至った背景には、さまざまな要因があります。全体的な経費、市場動向、国際旅行の費用や複雑さ、世界の政治・経済状況などがその一例です。提案されているガイドラインでは、ローテーションや開催地の決定権の多くをワールドボードに委ねる形になっています。それは、NAの内部・外部の状況を含め、不確実な要素が非常に多いためです。コンベンション業界全体の状況が変化していること、メンバーの行動も変わっていること、そして数年先の状況を予測することは不可能であることが、その理由です。詳しい内容については、CARに掲載されている解説文をお読みください。

### Slides 24-25

動議3：2028年以降、ワールド・コンベンション・オブ・ナルコティクス・アノニマス（WCNA）を5年ごとに開催することとする。

開催地は、収支を最低限でも収支均衡にできる場所を念頭に、財務的・地理的な要素を考慮してワールドボードが決定するものとする。

（GWSNAにおけるWCNAガイドラインの具体的な変更点は、付録Cに示されています）

提案者：ワールドボード

意図：世界規模の大規模イベントの変化を反映し、フェローシップの資源を慎重に活用することを支援するWCNAガイドラインを設けること。

財務的影響：現時点で直接的な財務的影響はなし。今後発生する費用については、プロジェクト計画または予算で明示される。

影響を受ける方針：付録Cで示される方針が、GWSNA現行WCNAガイドライン（付録D：46～48ページ）に代わる。

（ディスカッションのため一時停止）

### Slide 26 [リージョンからの動議]

今回のCARで地域から提出された動議が2件あるのは、WSCとしては例外的なことですが、これはより協働的で議論重視のカンファレンスへの移行を示す兆しかもしれません。

動議の数が少ないことで、WSCでは、フェローシップ全体に影響する課題について議論する時間や、協働的な計画策定の次のステップを練り上げ、形作る時間が、より多く確保できるようになります。

## Slide 27 [リージョン/ゾーン動議のプロセス]

CARに動議の草案を提出する締め切りは2025年7月1日、最終草案は2025年8月3日でした。7月1日時点で、9件の動議草案が提出されていました。その後1か月の間に、ボードは動議提案者と協力し、動議が「CAR対応」となるよう調整を行いました。『ワールドサービスガイド』では、動議がCAR対応となる条件について、19～20ページで説明されています。

ワールドボードは、動議提案者と協力して、カンファレンスの承認を必要としない形で解決策に至ることがよくあります。実際に、いくつかそのような合意が成立しました。これらの例は、CARの44ページに記載されています。これらは、ワールドボードと協働する方法の良い例です。多くの場合、アイデアや懸念は、CAR動議を提出することなく解決することができます。ワールドボードは常に、関心のあるメンバーに対して、メール（wb@na.org）で連絡を取り、対話を始めることを推奨しています。

その他2件のケースでは、動議草案に含まれていたアイデアはすでにCARサーベイの項目に含まれていました。2026年カンファレンスの実験的措置として、中間WSCでは、新規および改訂の回復文献やサービス文献のすべてのアイデアをCAR動議としてではなくCARサーベイに含めることを承認しており、これによりアイデアを互いに比較し、優先順位をつけながら検討できるようになっていました。

最終的に、このCARに含まれる2件のリージョンからの動議が生まれました。

## Slide 28

動議4：ワールドボードに対し、2029年WSCで検討されるプロジェクト計画を作成するよう指示する。内容は、既に受刑者向けタブレットに提供されているIPや第5版ベーシックテキストの音声版に加え、長編書籍形式の文献を受刑者に提供する際の機会と障壁を調査・検討すること。

提案者： アリゾナリージョン

共同提案者： フロリダ、オハイオ、北カリフォルニア、南カリフォルニア、スウェーデン、英国、ユタ

## Slide 29

意図： カンファレンスとフェローシップが、受刑者向けにタブレットで長編文献を提供する際の機会と障壁について有意義に議論できるようにすること。

財務的影響：プロジェクト計画を作成する費用はごくわずかで、NAWSの費用が発生するのは、WSCが計画を承認し優先事項として実施した場合のプロジェクトそのものに限られる。

影響を受ける方針：なし

### Slides 30-32

リージョンによる説明：ナルコティクス・アノニマスは、回復を求めるすべてのアディクトに、希望と自由のメッセージを届けることを目的としており、受刑者メンバーも含まれます。矯正施設が物理的な書籍から安全なデジタルタブレットへの移行を進める中、多くの受刑中のアディクトは、『今日だけ』や『なぜ、どのように効果があるのか』、そして『リビング・クリーン』などの長編NA文献から切り離されつつあります。このまま何も手を打たなければ、最も孤立しているメンバーの一部にとって、私たちのメッセージの土台へのアクセスが制限されるおそれがあります。

この動議を承認することで、ワールドボードは、受刑者用タブレットシステムを通じてフェローシップの長編文献を提供するための、実務的かつ原則に沿った方法を検討するプロジェクト計画を策定できるようになります。この計画では、物流、法的、財務、フェローシップ関連の課題を検討し、あらゆるアプローチが自己資金原則を尊重し、フェローシップ知的財産信託（FIPT）に定められたNAの知的財産の整合性を保持することを保証します。

多くの受刑中メンバーは、施設の方針や地域によって文献へのアクセスに格差を抱えています。デジタル化の選択肢を検討することで、フェローシップはこれらの不平等に対応しつつ、変化する環境に適応することができます。また、矯正施設との信頼されるサービス担当者との関係を強化し、限られた経済的資源しか持たないメンバーにもNA文献がアクセス可能であり続けるようにする機会ともなります。

この動議を支持することで、ワールドサービスカンファレンスは、状況にかかわらずすべてのアディクトにメッセージを届けるという私たちの責任を確認するとともに、ワールドボードが積極的に行動し、情報に基づいた選択肢をフェローシップが検討・承認できる形で提示する権限を与えることとなります。

### Slides 33-36

ワールドボードの回答：ワールドボードは、提案者と同じく、受刑者を含むすべてのアディクトがNA文献と回復のメッセージにアクセスできるようにすることへの責任を共有しています。矯正施設における印刷書籍からデジタルタブレットへの移行は、機会と課題の両方をもたらすことを認識しています。

ワールドボードは、この動議は不要であると考えています。なぜなら、NAワールドサービスはすでに、自己資金原則とフェローシップ知的財産信託（FIPT）の整合性を尊重しつつ、矯正施設で文献を利用可能にするための継続的な取り組みを行っているからです。現在、取引先業者や各部門と協力し、na.orgで既に提供されている資料を無償で提供しています。ベーシックテキストは12言語で音声版が利用可能で、IP、冊子、翻訳資料は61言語でアクセス可能で

す。『An Introductory Guide to NA NA入門ガイド』は、10本のIPとベーシックテキストのステップ章を含み、まもなく英語とスペイン語の音声版で提供される予定です。

タブレットでの長編書籍提供は簡単な解決策ではありません。矯正施設的环境は大きく異なり、多くの施設では依然として紙の書籍が必要です。NAワールドサービスは、無償で提供する資料に料金を請求する営利タブレット会社とは契約していません。私たちの焦点はアクセスの確保にあり、商業化ではありません。

NAワールドサービスが主に文献販売によって資金を賄っていることは重要な点です。その多くは、受刑中のアディクト支援の取り組みからの収益です。私たちは、多くの資料を無償で提供していますが、それは私たちの使命を深く信じているからです。同時に、世界中にメッセージを届けるためのサービスの持続可能性を確保することも必要です。

かつて主要なタイトルのPDFをオンラインで提供していましたが、無断配布が大規模に発生したため、提供を中止しました。現在、受刑者用タブレットで最も頻繁に利用されているのは音声資料、特にスペイン語版であり、これが最近の録音プロジェクトの指針となっています。

20年以上にわたる慣行として、NAワールドサービスは、受刑中のメンバーからの要請に応じて無償で文献を提供し、継続的な接触の後にはベーシックテキストも提供しています。また、施設内でのミーティング実施を支援するH&I活動や、薬物依存治療を受けるメンバーがNAで歓迎されることを含むリエントリー支援の重要性も認識しています。

デジタルツールは今後も進化していきますが、技術・人とのつながり・財務的責任を組み合わせたバランスの取れたアプローチこそが、私たちのメッセージを届ける最も効果的な方法です。この動議の意図は、すでにNAワールドサービスで進行中の取り組みとも整合しています。

(ここでディスカッション用の一時停止)

### Slide 37

動議5： ワールドボードに対し、WSC会議（対面およびオンライン）の現行の人による同時通訳を置き換える形で、人工知能（AI）による通訳ソリューションを導入するよう指示する。

提案者： サウスフロリダ地域

共同提案者： イラン、英国、ネパール

### Slide 38

意図： 言語の壁をなくし、世界中のすべての声が届けられるようにすることで、会議でのコミュニケーションと時間の効率を向上させることを目的としています。この取り組みはまた、人による通訳ミスや通訳者の欠席のリスクを軽減することも目指しています。

財務への影響： この技術導入に伴う費用は大きいと予想されますが、さらなる分析が行われるまで正確な金額は未定です。

影響を受ける方針： なし

### Slide 39

リージョンからの説明： この取り組みの意図について、さらに明確にしたいと思います。私たちの目的は、母国語が英語でないRDやADが、直接の議論の場で自分の考えをより効果的に母国語で表現できるようにすることです。これにより、通訳への依存を減らすことができます。さらに、このアプローチは第2の概念にも沿ったものであり、サービス構造はグループからの導きやリソース、ここでは良心の問題と見なすスピリチュアルな導きも含めて求めることを目指しています。

### Slides 40-43

ワールドボードの回答： ワールドサービスは、特に母国語が英語でないメンバーのWSCでのコミュニケーションと参加の向上という目標を共有しています。参加の障壁を取り除くことは、参加の障壁をなくすことは、私たちが特に重視している取り組みです。

しかし、この動議は、カンファレンスが柔軟に対応し、タイムリーに運営上の判断を下す能力を制限してしまう可能性があります。アクセスの向上や効率化のために新しい技術を試すことには賛成ですが、この動議は特定のツールであるAI通訳で人間の通訳を置き換えることを義務付けています。この置き換えが問題です。人間の通訳は、ほぼ常にNAメンバーであり、正確さ・文化的理解・精神的なつながりをもたらしますが、技術では再現できません。人間通訳を置き換えることは、WSCでの効果的なコミュニケーションを損なうこととなります。

私たちは長年、WSC参加者自身がプロセス変更を試行し判断することが最も適していると考えています。2023年のCAR回答でも次のように述べています。

「WSCの会議に影響するプロセスについて、参加者自身に判断させることは、CARを通じて同様の変更を行うよりもはるかに機動的です。」

技術が急速に進化する現状では、柔軟性を持たせることのほうが、厳格な方針よりも実践的です。

AIツールは、代替ではなく補助として、小規模な場面やカンファレンス間で試すことは可能です。しかし、試行や調査なしに現時点で義務化するのは時期尚早です。WSCの通訳者は単に翻訳するだけでなく、回復の概念・感情のニュアンス・文化的な微妙さを伝える重要な役割を担っています。また、セッションの合間に参加者をサポートし、AIではまだ提供できない双方向のコミュニケーションを確保しています。

カンファレンスの議論には、時にセンシティブな内容が含まれます。AIを用いたシステムには潜在的なプライバシーリスクがあり、人間の通訳者が持つNAの伝統に対する理解は欠けています。現行の技術は、特に私たちの専門的な回復用語において、正確さ・速度・文脈理解に課題があります。

ワールドボードは、コミュニケーションを助ける新しいツールの探求を継続的に支持しますが、人間の通訳の代替として義務化することには賛同しません。WSCの成功は、柔軟性・包

括性・精神的つながりにかかっており、自動化だけでは実現できません。技術が進化する中で、カンファレンスレベルでの継続的な試行と対話を推奨します。

(ここでディスカッション用の一時停止)

#### Slide 44

このPowerPointが、今回の資料に関する議論の助けになれば幸いです。なお、CARの残りの内容に焦点を当てた他の5つのPowerPointもあります。これらの資料、CAR本体、オンラインCARサーベイはすべて [na.org/conference](http://na.org/conference) でご覧いただけます。

CARやその他の事項に関するご質問やご意見は、[worldboard@na.org](mailto:worldboard@na.org) までお寄せください。